

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－  
ワークショップ実施計画書

|       |             |
|-------|-------------|
| 制作団体名 | 一般社団法人劇団野ばら |
| 公演団体名 | 一般社団法人劇団野ばら |

| 内容  |
|---|
| <p>① 事前の鑑賞指導20分</p> <p>金子みすゞの詩の「みんなちがって、みんないい」という精神が、このお芝居の根底にあるテーマであります。金子みすゞという人物を知り、その詩に触れることは、このお芝居を鑑賞するうえで、より深い興味をもってもらうことができます。指導者がその生涯を朗読し、子供たちに伝え、参加児童全員で「わたしと小鳥とすゞと」を、声を出して読んでみます。その際に、日ごろ私たちが練習している舞台上で声を出すための呼吸法と発声法を一緒にやってみます。</p> <p>② 実技指導(共演の指導も含む)40分</p> <p>まずは、みんなで体をリラックスさせるための運動をやってみます。</p> <p>「あしたあさってしあさって」では、幕開けプロローグと最後のエピローグで公園のシーンがあります。本公演の積み木の大道具を使って公演のセットをつくり、参加児童の皆さんにどんな公園でどんな遊びをするのかを想像してもらい実際にそのセットで遊んでもらいます。参加児童を2つのグループに分け、演じた児童は、どんな公園での遊びを伝えたかったか、また見た児童はどんなふうに見えたかの意見交換をおこない舞台をつくる上でのコミュニケーションを取り合います。そのうえで、児童の皆さんが共演の舞台上でどう演じるかを指導します。</p> <p>③ 共演の指導20分</p> <p>共演の舞台上でどのように歌うのかを説明し、エピローグで歌われる「わたしと小鳥とすゞと」の歌唱指導と振付をおこないます。</p> <p>このワークショップでは、詩を言葉と音楽(歌)と表現(振付)とを使って人に伝える楽しさや、公園遊びを通して体の表現を使って人に伝える喜びを児童の皆さんに感じてもらいたいと考えています。</p> |

タイムスケジュール(標準)

開始時間の1時間前に担当者の到着 準備・会場下見(午後の場合30分～60分前を想定)

- ① ワークショップ参加児童の事前指導 20分
- ② 実技指導ワークショップ参加児童のみ 40分
- ③ 共演の指導 20分
- ④ 途中休憩 10分含む 90分とします

派遣者数

合計(4名)指導者(1名) 補助指導者(3名)

学校における事前指導

ワークショップ共演者児童の選定(高学年希望30人前後を対象)

それ以外のワークショップの事前指導はありません

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－  
本公演実施計画書

|       |             |
|-------|-------------|
| 制作団体名 | 一般社団法人劇団野ばら |
| 公演団体名 | 一般社団法人劇団野ばら |

演目

創作劇:あしたあさってしあさって

脚 本:かめおか ゆみこ

演 出:香川 良成

美 術:高崎 妙子

音 楽:田島 美津子・小椋 佳

派遣者数

出演者:6名

スタッフ:3名 計9名

タイムスケジュール(標準)

7:00～9:00 搬入・設営

12:15～13:15 休憩

13:15～ 入場

13:30 開演～14:40(所要時間1幕70分)カーテンコール 14:40～15:00

15:00～17:00 搬出

※コロナウイルス感染症拡大防止対応として、ワークショップと本公演を同日開催する際は  
9:00～10:30の時間帯にワークショップを開催する予定です。

### 実施校への協力依頼人員

現状では特にありません。

### 演目解説

主題歌で“あした あさって しあさって、光は満ちる繋いだ手と手の上に”と歌いますが、「人と人が繋ぎ合って、未来を創っていくんだ」というメッセージをもとに、子供たちに生きる勇気と喜びを与えることが作品のテーマです。

#### 《あらすじ》

主人公の健太郎は、自分勝手にたいへん乱暴な小学校4年の男の子。

ゲーム機で遊んでいた健太郎は、ある事件で気を失い倒れてしまう。

気がつくと、そこはゲームの世界

今までいじめていたカエルや猫、小鳥やトンボの魔物たちが次々と現れ、健太郎に復讐をする 魔物たちとの葛藤と交流のなかで、健太郎は次第に優しさをとりもどしてゆくが、そこに、ゲーム機の中では絶対の権力者であるドラゴンが登場し、健太郎にある命令を与え「この命令ができなければ、お前は永遠にゲームの世界から抜け出すことができない！」と言った。

果たして、健太郎はゲームの世界から抜け出し、現実の世界に戻ることができるのでしょうか…。

#### 《舞台表現上の工夫》

3人がかりで操る大きなドラゴンをはじめ、積み木を使った場面ごとのセットのおもしろさ、また、歌や効果的な演出で、観客は物語の中に吸い込まれていきます。音楽性も豊かに、エピローグでは子供たちと一緒に合唱し、感動の内に幕になります。

### 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

主題歌「きのう悲しみに出会った君は」と「わたしと小鳥とすずと」の2曲を収録した CD を事前に学校にお届けし、校内放送や学級で流してこの曲に親しんでいただきます。

当日は、劇のエピローグで、事前にワークショップに参加したグループに舞台に立っていただき、振りを交えて、全校児童が2曲を大合唱します。

また、終演後に時間の許す限り児童の皆さんが劇の感想を述べたり、質問をするコーナーを設けて、交流をします。

児童生徒とのふれあい

ワークショップ、本公演終了後の交流会は可能です。

劇団では公演会場の空間を劇場として考えています。舞台を身近に感じてもらえるよう、舞台裏の見学の交流会も行います。